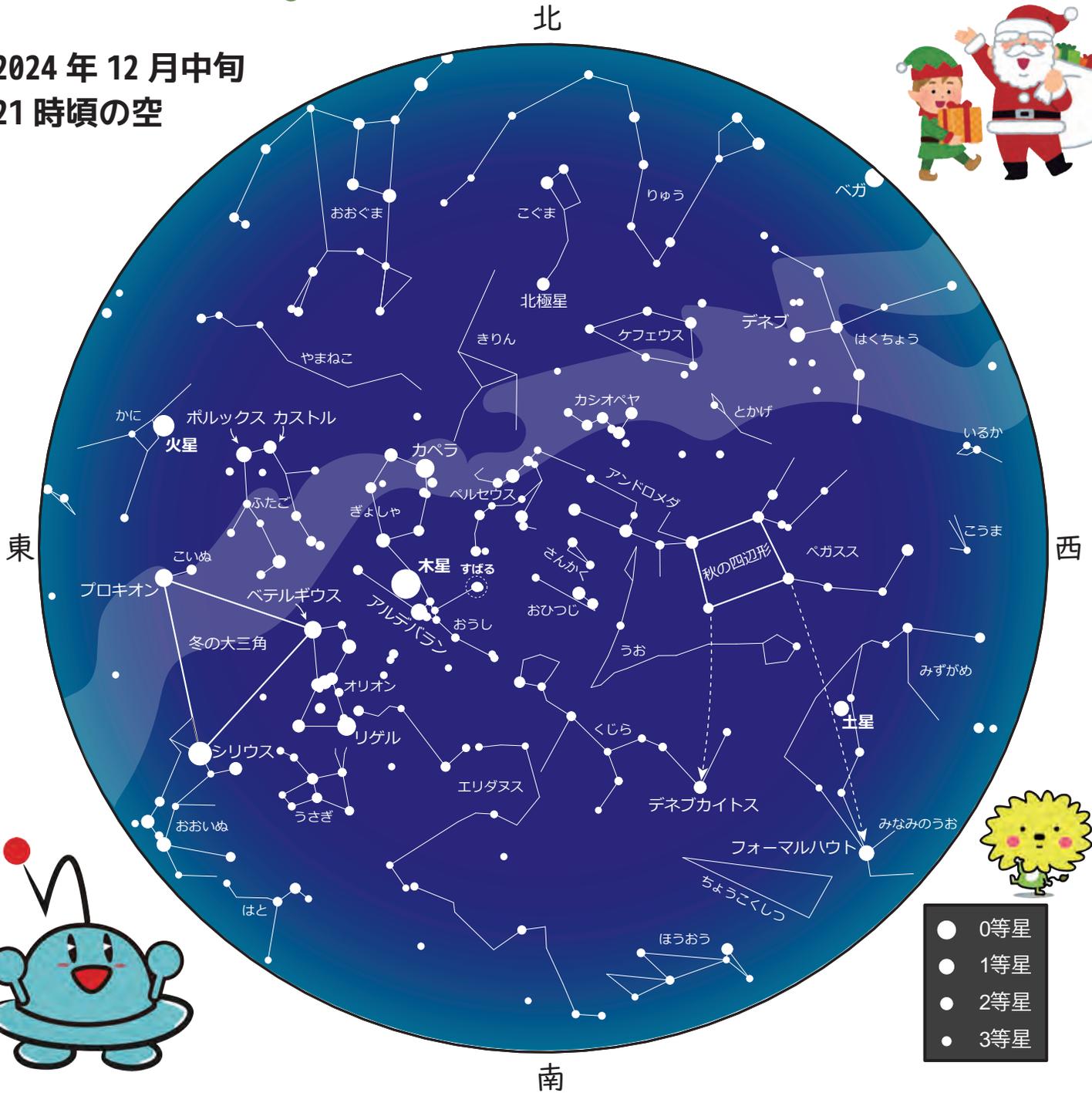


阿南市科学センター

12月の星空案内

2024年12月中旬
21時頃の空



忙しく時があっという間に過ぎてしまうことから師走と呼ばれている12月。夜空を見上げてみると秋と冬の星や星座が共演しています。西の空に見える**秋の四辺形**のうち西側二つの星をつなげて南に下ると見えてくるのが秋の唯一の一等星**フォーマルハウト**(約1.2等)です。フォーマルハウトを見つける途中になにやら明るい星が見えており、それは環を持つことで有名な**土星**(約1等)です。一方、南東の空を見てみると、ぼやっと肉眼でも見える**おうし座**の星団があります。**すばる**(M45)といい、目がいい人だと星が6個ほど別れて見えることから**六連星**と書いておつらぼしとも呼ばれています。すばるから少し目を落とすと見えるオレンジ色の星が**おうし座**の一等星**アルデbaran**(約0.9等)です。アルデbaranの隣でひとときわ明るく輝いているのが**木星**(約-2.8等)です。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

12月の月の満ち欠けと惑星について



新月
1、31日



上弦
9日



満月
15日



下弦
23日

12月の天体観望会で月が見える日時は？



12/7(土) 全ての回で観察可能



12/14(土) 全ての回で観察可能

水星：上旬頃は日没後の西のごく低空で、中旬以降は明け方東のごく低空で見える【0.6等】

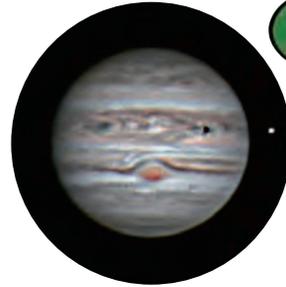
金星：日没後、西の低空で見える（宵の明星）【約-4.2等】

火星：前半夜に東の空から昇ってくる【-0.8等】

木星：一晩中観察しやすい【約-2.8等】

土星：日没後、南の空で見え始め前半夜に沈む【約1.0等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ。



木星の観察がしやすい時期になってきたぞ！



今月の天文現象

【12月8日は土星が月に隠される！】

月の裏側に土星が隠れていく現象、土星食。日本でも地域によっては見れる場所と見れない場所がありますが、ここ阿南市では問題なく観測できそうです。12月8日に起きる土星食は今年2回目、今回は前回の7月よりも条件がよさそうです。

今回は月をかすめるように隠れていきます。土星が隠れ始めてから完全に隠れてしまうのに約2分かかり、そして数十分ほど月の裏側に潜ったのち、約2分かけて出現します（図1）。この日、月はほぼ半月の状態、月の明るい部分と暗い部分のちょうど境目くらいから土星が月に潜入していく様子が観察できるでしょう。なお当館ではYouTubeを使ってライブ配信を行う予定です。

普段土星は明るく輝いていますが、月の光に負けて、肉眼で観測するのは難しいかもしれません。双眼鏡や望遠鏡を使うとバッチリと見えるでしょう。12月25日にはおとめ座の一等星スピカが月の裏側に隠れるスピカ食があります。惑星による食と恒星による食の違いもぜひ楽しんでみてくださいね。

土星食のイメージ（阿南市）

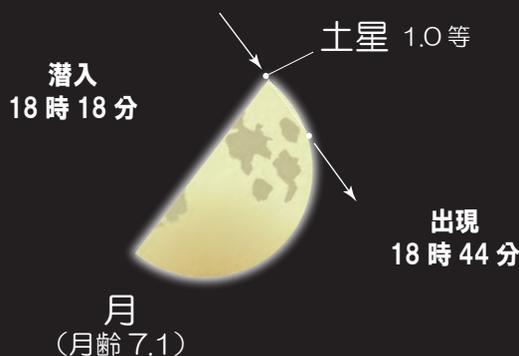


図1：12月8日の土星食の見え方（阿南市）

※時刻や図はステラナビゲータをもとに作成

【2024年ふたご座流星群について】



図2：ふたご座流星群の放射点の位置
(2024年12月13日20時30分頃の空)。

毎年、活発な出現をみせてくれるふたご座流星群。今年のピークは12月14日午前10時頃（JST）と予報されているので、観察は13日の夜が最も良いでしょう。ただし、今年は月明かりの影響が強く（13日は満月の二日前）、観察の条件は少々悪め。それでも、月明かりに負けない明るい流星も出現したりするので、是非観察にチャレンジしてみましよう。観察をするときは放射点にとらわれず、なるべく空の開けた暗い場所で、空全体を見渡すように行うと良いでしょう（放射点から離れた位置で流れることも多々あるからです）。ちなみに、千葉工業大学を中心とする日本の研究グループは、ふたご座流星群の起源として知られる小惑星ファエトンに探査機（Destiny+）を向かわせる計画を進めています。予定では2028年度に探査機が打ち上げられるとのこと。